

白狐の伝説残る常楽寺



常楽寺



白根地区飯野に常楽寺というお寺があるのをご存知ですか。このお寺の門前脇には、寺の守護神と伝えられている白狐を祀る小さな石の祠があり、それにまつわる昔話があります。

慶長年間（1596～1615）には、降り続いた豪雨により河川が氾濫し、一瞬の間に全てのものが押し流されてしまいました。ちょうどこのとき円隆和尚という、布教を続ける和尚さんがこの荒地に通りかけたところ、一匹の白狐が現れ、道案内をするように和尚さんの前を振り返りながら歩きます。和尚さんは白狐の後をついていき、どのくらい歩いたか、白狐に気を取られていたため、時間の過ぎるのにも気づきませんでした。今まで前にいたはずの白狐はいつの間にか姿を消してしまい、初めてわれに返った和尚さんは小高い丘の上に立っていました。和尚さんはこれこそ仏のお導きに違

派な寺院が完成し、同時に門前に白狐の祠を建てて守護神としたそうです。本尊の阿彌陀如来立像の上には白狐の彫刻があり伝説を偲ばせます。

白根町誌によると、常楽寺はもともと真言宗の寺院として建てられたとあります。その後、昔話にあるような河川の氾濫によって寺院の大半は流されてしまったそうですが、承応3年に円隆和尚を曹洞宗伝闍院から迎え、常楽寺を曹洞宗寺院として開山したといえます。

もし、常楽寺を訪れる機会がありましたら、門前脇の白狐の祠をご覧ください。



本尊は鎌倉期のものといわれる木造阿彌陀如来立像で県の指定文化財です。一昨年には県立博物館開館1周年記念特別展「祈りのかたち—甲斐の信仰—」で南アルプス市を代表する仏像として紹介されました。



今年1月20日には常楽寺において「文化財防火デー消防訓練」が実施されました。初期消火訓練、通報訓練、文化財搬送訓練、放水訓練等を常楽寺及び檀家さんや地元消防団の協力で行なわれました。大切な文化財を地域の人たちで守っていきたいですね。



門前にある白狐の祠



本尊が安置してある須弥壇を飾る白狐の彫刻

いないと、この地の有力者であった中込民部という人物にこの話をし、寺院建立に対する応援を依頼します。信仰の厚い民部も快く承諾して、早速建築に取り掛かりました。そして、承応3年（1654）に立